

1 学校教育目標

○よく考え進んで実行する子 ○なかよく助け合う子 ○心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・保護者・地域・教職員が互いに尊重・理解し合い、協働で児童を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んであいさつができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために個別指導に力を入れてきた。学習直後は定着が図られ、児童の自己肯定感も高まっているが、読解力や表現力にも課題がある。特色ある教育活動として、落語や俳句、百人一首、将棋等の伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。タブレットは学年が上がるほど、使いこなしている。自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育てていきたい。
- 教師…日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。学級活動や外国語・外国語活動の研究にも熱心に取り組み、授業力向上を目指した。
- 地域・保護者…学校創立119年目の伝統とともに、日々地域の力に支えられている。家庭との連携をさらに密にし、基本的生活習慣の定着に努めている。また、PTA、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、学習支援ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的である。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上プロジェクトを中心に、全校で基礎学力の定着・向上に邁進した。その結果、当初の区学力調査結果の数値が1月の再実施では、国語・算数ともに4月調査の結果より+14.5%になった。さらに2月に実施した本年度（現学年）の区学力調査通過率では、区平均より-0.3%まで迫ることができた。今後の課題は、引き続き基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導を充実させることと、全児童に読解力をつけていくこと。また、地域や地域人材を活用し、体験的活動を一層推進していく中で、児童が主体的に学ぶ学習を目指していくことである。
- 健康な心身の育成…あいさつを重視して、温かな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、思いやりの心をさらに育てたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応してきた。運動好きの児童が多く、年間を通した体育的活動や区のスポーツ大会で活躍した。体力テストの結果を反映し、体力向上策を立てて取り組んだので、今後も継続して取り組んでいく。
- 家庭・地域との連携…地域の幼稚園・保育園・中学校と積極的に交流することができた。地域や地域人材を活用した学習を進めることができたので、今後も継続して全学年で取り組み、地域の中の湊江小学校として活動し、学校愛・地域愛を育てていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	健康な心身の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
全校で、基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と、学力向上に関する取組を計画的に行う。		目標通過率は区全体平均にプラス1% 年度末は4月本調査の結果にプラス5%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	パワーアップタイム	国語 算数	火:計算 水:読書 木:漢字 金:作文 朝の会 開始前 15分。 音読水 曜以外 7分	【指導者体制】 担任 【取組のねらい・目的】 読み・書き・計算を身に付ける。 【使用教材】 前学年までの漢字、計算ドリル、音読、読書、短作文。 【どのように】 丸付けはその都度丸付けボランティアによる確認を経て当日中に返却する。	長期休業前に漢字・計算のテストを実施する。	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。 長期休業前に漢字・計算のテストで全80%以上の正答率			

改善	放課後補習教室 (けやき教室)	国語 算数	火・金・ の週2 回設定	<p>【指導者体制】 担任＋専科＋COM 教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 学力に課題のある児童の補習を行う。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル等</p> <p>【どのように】 SP 表分析により、つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別指導で学力に課題のある児童の補習を行う。</p>	1 回 30 分×年間 40 回以上	補習開始時と終了後の確認テストで正答率を開始時の70%以上に引き上げる。			
継続	基礎的・基本的な内容の理解の徹底	国語 算数 理科 社会	通年	<p>各教科の学習内容の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードに沿ったノート指導 ・足立スタンダードに沿った進め方 <p>言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語以外でも文章を書く機会（振り返りを記入する等）を必ず設ける。 <p>主体的・対話的で深い学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での対話的な時間を確保する。 	区学力調査、年度末の目標通過率80%以上	区学力調査後に9月と1月に確認テストを実施 各回10%アップ			
新規	けやきタイム	1, 2年	週1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の定着を図る。 ・つまずき解消に向けた指導を行う。 	区学力調査年度末の目標通過率80%以上	年間30回以上実施			
新規	ICT を活用した授業力の向上	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を使った授業を行い、児童の意欲を高め、深い学びにつなげる。 ・ICT 担当による校内研修。 	授業観察時にタブレットを活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自己申告時に2回授業 ・校内研修を年3回 			

重点的な取組事項－2		健康な心身の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を認め尊重する態度、あたたかな人間関係を各学級基盤に定着させる。年間を通じた体力向上へ向けての取組を積極的に行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のいじめ調査において、対応後、すべて解決する。 ・都体力調査、全学年男女区平均以上。 			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時や来校者への挨拶の徹底。 ・家庭・地域への啓発。 			
いじめの根絶・不登校の解消	いじめの解消 100% 不登校の解消 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化 ・スクールカウンセラー・関連機関との連携 ・道徳授業、学級活動の充実 			
体育的活動の充実	体力向上に向け、年間を通して全校で取り組む	体力調査の項目について、体育授業の始め5分に取り入れ、年間を通じて向上を図る。			

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。		学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 85%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域や地域人材を活用した教材の開発	各学年 2 回以上実施	<p>1, 2 年は生活科で公園探検や地域探検、3～6 年は社会・総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習。</p> <p>3 年以上は、ICT を効果的に活用する。</p>			

幼稚園・保育園との連携	1 幼稚園・1 保育園との連携活動の推進	保育園への全員参観、交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施。			
保護者による年間 2 回の学校評価の実施	2 回の学校評価アンケートの平均回収率 70%以上	長期休業日前の年 2 回アンケートを実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）